

西谷会計

平成28年7月号



【お知らせ～みちのく銀行の社外役員に就任しました～】

既にプレスリリースで公表されておりますが、この度、株式会社みちのく銀行の社外役員に就任しました。

役員会での議決権もありますので、今後は、みちのく銀行の経営判断に票を投じることになります。地元金融機関の意思決定に関わるということは、青森県の経済発展にも貢献できることから、とてもやりがいを感じるところです。

地元経済の発展に一生懸命に尽くしていきたいと考えておりますので、西谷会計事務所を引き続き、よろしくお願い致します。

【所長の本棚より ～「一日36万円のかばん持ち」～】

本日紹介するのは、(株)武蔵野の社長である小山昇さんの著書「一日36万円のかばん持ち」です。(株)武蔵野はダスキンのレンタル事業と経営コンサル事業を行っています。中小企業の社長さんは、税込で108万円支払うと3日間、小山さんのかばん持ちをすることができます。予約は70人で一年間待ちだとか。3日間かばん持ちをすると、多くのことを学ぶことができますが、この本はそのエッセンスをまとめた本になります。

社長としての心得が40項目書かれているのですが、それぞれの項目について、一流の社長、二流の社長、三流の社長の行動パターンがかかれています。2つばかり紹介すると、「訪問先で出されたコーヒーを」「三流の社長はゆっくり飲む」「二流の社長は急いで飲む」「一流の社長は飲まない」、「借金について」「三流の社長は『悪』と考える」「二流の社長は『時には必要』と考える」「一流の社長は『限界まで借りてなかなか返さない』」のだそうです。それぞれの理由について、小山社長が説明しています。

社長の時間の使い方にもページを割いているのですが、なるほどと思ったのが、かばん持ちをした人の質問に答えて小山さんが、「時間が空いてから『さあ、この時間で何をしようか』と考えていたらあっという間に時間がなくなるし、せっかく30分時間ができたのに、必要な書類やツールを持っていないと仕事ができない。だから朝起きた瞬間から『今日はこれをこの時間にやろう』と決めています」と回答している下りです。最近ではスマホがあるので、時間つぶしが便利になりましたが、「つぶして」いるうちはいけませんね。勉強になります。



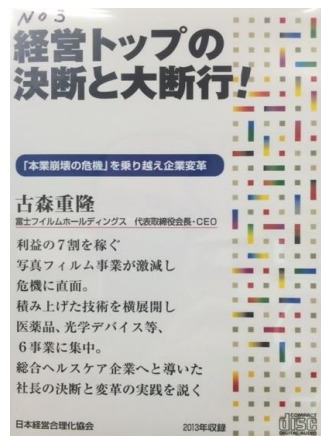
【所長のDVDコレクションより～「富士フィルム」～】

今回は、富士フィルムホールディングスのかつてのCEOである古森重隆さんを紹介します。富士フィルムは創業が1934年、戦後日本で勃興した多くの企業が先進的な欧米の企業から人材を招聘して始まったのとは異なり、富士フィルムは当時の業界の巨人であったコダックからの指導もなく、オリジナルの技術ではじまりました。古森さんが入社した1960年代、コダックは感光材に必要な銀のために銀山を所有したり、ゼラチンを牛の骨から取るために牧場を所有したりと、古森さんは「こんな会社と戦って勝てるのか」と心配になったそうです。しかしながら、1970年代の後半には富士フィルムは技術的にはコダックを一部抜いて、1980年代にはすべての領域で抜き去ってしまいました。

古森さんは、2000年に社長に就任すると積極的にデジタルカメラの分野に進出します。しかしながら、もともと差別化の難しいデジタルカメラは、2003年ごろから競争が激化してフィルムの減少を補えなくなってきました。古森さんは開発本部に命じて2年がかりで会社の技術を洗い出し、化粧品などの新分野に進出することを決断しました。肌の張りを保つコラーゲンは富士フィルムが70年間研究してきたゼラチンと同じであることや、高解像度化のための微粒子の研究は既存の化粧品メーカーよりも2桁も違うサイズの微粒子、その分浸透しやすいものを造れることがわかったのです。

古森さん曰く、自身が社長に就任する20年も前からデジタルの時代が来ることは、業界では誰もがわかっていたそうです。それでもコダックはデジタルに一生懸命取り組むことにためらいを持っていたようだと言います。古森さんは分析しています。というのも、デジタルを一生懸命やればやるほど既存のフィルム事業を食ってしまうからです。一方、富士フィルムは自社がやらなくても誰かがやると考えたので、デジタルカメラも多角化も一生懸命やりました。その結果、富士フィルムの売上は2兆円を超える一方で、コダックは数千億円レベルにとどまっているのです。

古森さんは、物事を決断しようとする必ず反対があるといっています。理由は既得権益がある人は物事を変えたくないからです。みんな仲良くだといつまでも決まらない、本当に大事なことは民主主義ではなくリーダーが決めなければならないとお話しています。また、古森さんは、物事を判断するには、膨大で偏りのない情報収集と大変なエネルギーが必要になるとも述べています。そのためには、社長たる者、常々健康に気を配り、家庭内の不和は大敵だとも述べています。



【夏子の部屋】

暑くなったり、寒くなったり、ジメジメしたり、ムシムシしたり。梅雨って感じの毎日ですね～。皆様こんにちは、夏子です。

先日、今別町に行ってきました。目的は北海道新幹線の奥津軽いまべつ駅を見ることです。私は駅をわざわざ見に行くという事にあまり乗り気では無かったのですが、「今見ておかなくては、いつ……か分かんないよ!」と言われ、……の部分を感じたのですぐに見に行く事にしました。新幹線の駅に行くのだから青森駅から新幹線に乗って行くのだろうと思いましたが、まさかの車での旅でした。でも、どちらかと言うと新幹線に乗って駅だけ見に行く方が、まさかのなのかも知れません。

さあ、国道280号線を北上して今別町までのドライブ出発です。はたして着いたところで奥津軽今別駅の他に何処を見るのでしょうか？何にも考えていません。それでもドライブは楽しいです！ちょっと小雨混じりですが蓬田を過ぎ蟹田を過ぎ順調に近づいて行きます。するとヘルメットをかぶりピチっとしたウェアに身を包み自転車漕いでいる人に時々すれ違います。本格的に身体を鍛えている人がここには何故多いのだろうと思っていましたら、奥津軽ドリームライドと言うサイクリングのイベントをやっていた様です。北海道新幹線開業応援スポーツイベントとして、青森に全国の自転車愛好家をお招きして、景観が素晴らしい津軽半島を知っていただく今別町が頑張っていたのに全く知りませんでした、青森県民として申し訳ない！

そうこうしている内に目的地 北海道新幹線奥津軽いまべつ駅に到着しました。駅前ロータリーの先に突然現れた駅はガラス張りでもとも上品で立派でなんだか可憐で清潔です。ワクワクしてきました。中に入ると真ん中にかいエレベーターとその周りには広い階段。階段には115段ありますという親切な表示があります、ナイスお知らせです。今別の人の優しさが感じられます。

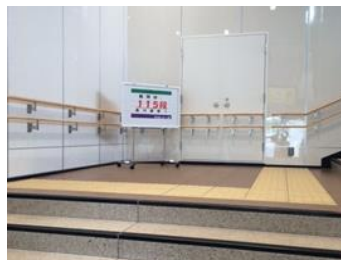
上に上がりエレベーターを降りると、ホームに向かうこれ又ガラス張りの長い通路があります。この通路からは複数の線路が長く伸びている様子が眼下に見られ、遠くには奥津軽の深い緑の山々を眺めることができ景色は最高です。階段を降りる時も所々に設けられている窓から見える景色がまるで絵画とそのフレームのようです。シンプルな駅ですがとても良く考えられていると思いました。

駅の他にも、青函トンネル入り口公園で北海道新幹線が青函トンネルから出てくるところと東北新幹線が青函トンネルに入るところを見たり、津軽三十三観音二十一番札所を見たり、潮騒橋と渚橋をおっかなびつくり渡ったり、今別町は見どころが沢山ありました。

中でも一番良かったのがいまべつ牛のステーキです。道の駅いまべつの中にあるレストランで食べたのですが、肉が厚いのに柔らかく程よい焼き加減とジュシーさ、とっても美味しかったです。青森市でも店を出さないかしら？

それにしても、奥津軽とはいつからある言葉なのでしょうか？私は今回はじめて意識しました。地域的には西津軽郡と北津軽郡ですね。奥津軽と名乗る事で今までと違う景色に見えましたよ、何て緑が深いんだ、吸い込まれそうだと。奥日光、奥松島、奥飛騨、奥湯河原等々。

「奥津軽」、良いじゃあないかどンドン盛っていきょうじゃないか～！！



西谷会計事務所

〒030-0821 青森市勝田2-6-18

<http://www.248nishiya.com>